

中国古典詩の受容と継承に関する研究：六朝貴族文学の展開を中心に

著者	石 碩
雑誌名	科学研究費助成事業 研究成果報告書
ページ	1-6
発行年	2019-06-20
URL	http://hdl.handle.net/10114/00023360

令和 元 年 6 月 20 日現在

機関番号：32675

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K16811

研究課題名（和文）中国古典詩の受容と継承に関する研究～六朝貴族文学の展開を中心に～

研究課題名（英文）Research on Acceptance and Inheritance of Chinese Classical Poetry

研究代表者

石 碩（SEKI, Masumi）

法政大学・経済学部・准教授

研究者番号：20732689

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、中国南齊の詩人・謝朓（月＋兆）の詩について、その宣城期の表現的特徴と、後世における受容・展開の様相を調査し、分析を行った。その結果、謝朓（月＋兆）の文学は宣城への赴任を契機として大きく変化したものの、実際に宣城期に為された「個」の詩人としての創作が評価されるようになったのは、盛唐の李白による愛好を経てからであることが明らかになった。また、李白が謝朓（月＋兆）ゆかりの地で多くの詩作を残すことにより、「謝朓（月＋兆）と李白の合作」ともいべき表現が数多く生み出され、謝朓（月＋兆）はその後、李白が導く方向に従って人々に理解されてゆくようになることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国古典詩は、前人の語彙や表現を継承・発展させることによって、新たな作品が生み出されてきた。この特質を念頭に置いたとき、中国古典詩の最盛期ともいべき唐詩の礎を築いた六朝文学への理解は欠かせない。本研究では、六朝期の文学を牽引した貴族文人のうち、特に南齊の謝朓（月＋兆）を中心に据え、その文学が後世の詩人によってどのように解釈・評価され、表現として展開していったのか、特に、盛唐の李白との関係に着目し、研究を行った。これにより、謝朓（月＋兆）の詩文や人物像の受容・展開の経緯や過程を系統的に明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：This paper examines the poems of Xie Tiao 謝朓（月＋兆） in China Nanqi 南齊 Period. Mainly I investigated and analyzed the expressional features of his poems written during his stay in Xuan Cheng 宣城, and how they were accepted and developed by later generations. As a result, I found that although Xie Tiao 謝朓（月＋兆）'s literature changed greatly after he was appointed to an official post in Xuan Cheng 宣城, his poems written in Xuan Cheng 宣城 began to be really admired only after Li Bai 李白's appreciation in the flourishing period of Tang Dynasty. In addition, I clarified that because Li Bai 李白 composed many poems in the places linked to Xie Tiao 謝朓（月＋兆）, many of the works were named after "the corporation between Li Bai 李白 and Xie Tiao 謝朓（月＋兆）". After that, Li Bai 李白's understanding of Xie Tiao 謝朓（月＋兆） came to have a wide influences on future generations.

研究分野：中国文学

キーワード：謝朓（月＋兆）詩研究 李白と謝朓（月＋兆） 謝朓（月＋兆）詩受容史・展開史 中国古典詩の受容と継承に関する研究 六朝詩と唐詩の比較研究

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19（共通）

1．研究開始当初の背景

謝チョウ（月＋兆）（464 - 499）は、中国の六朝時代の門閥貴族を代表する詩人であり、その生涯と作品はのちの唐詩人に大きな影響を与えた。盛唐の李白もそのうちのひとりである。謝チョウ（月＋兆）に関する専著には、これまで、中国の魏耕原『謝チョウ（月＋兆）詩論』と孫蘭『謝チョウ（月＋兆）研究』、日本の網祐次『中国中世文学研究 南斉永明時代を中心として』、佐藤正光『南朝の門閥貴族と文学』、森野繁夫『謝宣城詩集』（訳注）などがあり、その他の個別的な研究としては、1)謝チョウ（月＋兆）詩の表現的特徴を論ずるもの、2)謝チョウ（月＋兆）詩に現れた隠逸の意識について論ずるもの、3)謝チョウ（月＋兆）と謝靈運との比較を論ずるもの、4)永明体または竟陵八友の繋がりの中で謝チョウ（月＋兆）を論ずるもの、5)宣城期の謝チョウ（月＋兆）詩および謝チョウ（月＋兆）の思想を中心に論ずるもの、6)謝氏の家系を中心に論ずるものなどがある。

しかしながら、謝チョウ（月＋兆）の詩風が確立し、その作品が評価され、後世の詩人がこれを受容し、その人物像が築かれていく過程に関する総合的な研究は、いまだ行われていない。特に、謝チョウ（月＋兆）詩の受容と展開における李白ら唐詩人の功績は極めて重要であるにもかかわらず、これまでの「李白と謝チョウ（月＋兆）」研究は、そのほとんどが、李白研究の立場に立脚し、謝チョウ（月＋兆）を副次的に取り上げるのみであった。六朝時代を代表する詩人である謝チョウ（月＋兆）の詩文の誕生・受容・継承・発展を詳しく辿ることは、謝チョウ（月＋兆）詩研究を一步推し進めるのみならず、中国古典詩の誕生と展開の特質を明らかにする上でも極めて重要な事例となるだろう。

2．研究の目的

中国南朝（439 - 589）の門閥貴族・謝氏は、謝靈運・謝チョウ（月＋兆）ら著名な詩人を輩出しており、謝氏の文学に関しては、これまで、1)家風の特徴、2)社会背景、3)個別の作品、などに関する研究が行われている。その一方で、謝氏に代表される中国南朝の貴族文学が、その後の中国詩文の発展にどのような影響を与えたのか、そして南朝期に形成された詩の題材や表現が、唐詩以降どのように定着し、展開してゆくのか、という内容については、未だ体系的な研究がなされていない。本研究は、南朝貴族・謝氏の中でも、特に南斉の謝チョウ（月＋兆）を中心に据え、その文学がどのように誕生し、後世の詩人に受容され、さらに新しい文学の礎として継承されてゆくのか、また謝チョウ（月＋兆）の詩人の確立・変遷について分析を行う。これにより、中国古典詩の受容と継承の様相の一端を明らかにすることが目的である。

3．研究の方法

本研究の課題は主に二つの部分に分かれる。第一の課題は、謝チョウ（月＋兆）の詩風が確立された時期、すなわち謝チョウ（月＋兆）が宣城に赴任していた時期作品の特徴を明らかにすることであり、第二の課題は、謝チョウ（月＋兆）詩の評価および謝チョウ（月＋兆）の人物像が確立された唐代における謝チョウ（月＋兆）詩の受容・展開の様相を明らかにすることである。この二つの課題は、密接なつながりをもって、相互の論を補強するものと思われる。すなわち、宣城期における謝チョウ（月＋兆）詩の特徴を踏まえることで、李白をはじめとする唐詩人の謝チョウ（月＋兆）愛好の意味はよりいっそう鮮明に浮かび上がってくるだろうし、宣城期の謝チョウ（月＋兆）に対する唐詩人の理解は、謝チョウ（月＋兆）の文学の実像を明らかにする上で大きな手掛かりになるとと思われるからである。こうした研究課題の全体像を念頭に置きながら、本研究では、以下の手法を用い

て研究を行った。

1) 受容史・評価史研究

謝チョウ(月+兆)の詩句や表現が、後世の文学にどのように受容されたのか、その変遷を分析した。具体的には、謝チョウ(月+兆)の詩句から代表的なものを抜き出し、その表現を踏襲した作品について、唐・宋・明・清の各時期の特徴を調査した。また、謝チョウ(月+兆)の文学の後世における評価について分析を行い、併せて謝チョウ(月+兆)の人物像の確立と変遷、およびその経緯について明らかにした。この研究方法を用いた成果として、平成 28 年度の論文「『李白と謝チョウ(月+兆)』再考 『澄江浄如練』句の受容と展開」と平成 29 年度の論文「謝チョウ(月+兆)像の確立をめぐって 李白から中晩唐へ」がある。

2) 詩語研究

謝チョウ(月+兆)の詩に見える特定の語彙(詩語)が、本来どのような背景で誕生し、その後、どのように意味が変遷してゆくのか、またその原因は何かについて研究を行った。この研究方法を用いた成果として、平成 28 年度の論文「『李白と謝チョウ(月+兆)』再考 『澄江浄如練』句の受容と展開」と平成 30 年度の論文「敬亭山の印象 謝チョウ(月+兆)から李白へ」がある。

3) 地理考証

謝チョウ(月+兆)にゆかりある地、特に謝チョウ(月+兆)が地方長官をつとめた宣城の詩跡を対象として、そのイメージの変遷や詩中での詠じられ方の特徴について研究を行った。特に、謝チョウ(月+兆)の別業が存在すると考えられていた当塗県の青山に関する見直しと、宣城の北部に位置する敬亭山について、謝チョウ(月+兆)と李白の詩中における描き方の相違について分析した。この研究方法を用いた成果として、平成 29 年度の論文「從李白到謝チョウ(月+兆): 當塗青山的文學地理景觀考察」と平成 30 年度の論文「敬亭山の印象 謝チョウ(月+兆)から李白へ」がある。

4. 研究成果

平成 28 年度は、題材・表現・思想などの方面から、唐宋以降における「謝チョウ(月+兆)の文学」の受容と展開の状況を調査し、謝チョウ(月+兆)の文学に対する理解と、チョウ(月+兆)の詩人像が確立されていく経緯を明らかにした。主な研究成果として、『全唐詩』『唐宋史料筆記』、歴代の詩話・詩論などの資料から、謝チョウ(月+兆)を代表する詩句の後世における受容と展開の状況を調査し、その背景に李白による詩句のイメージの改変があったことを指摘した。この研究では、謝チョウ(月+兆)の一詩句の受容状況にとどまらず、中国古典詩が伝統性を獲得してゆく経緯を考察し、一事例として示している。当初の計画では、平成 28 年度は唐宋における受容状況のみを明らかにする予定であったが、元明清詩や詩話・詩論も調査・分析の対象に加え、より全面的な受容史・展開史研究を行うことができた。さらに、今年度の研究により、六朝詩人と唐詩人の比較研究の重要性が再認識された。なお、平成 28 年度の研究成果は、9 月に中国復旦大学で開催された国際シンポジウム「東亜視閥中的中国古典文献與文学学術検討会」にて、「從李白到謝チョウ(月+兆): 當塗青山的文學地理景觀考察」の題目で発表を行い、また 10 月に日本中国学会『日本中国学会報』第 68 集に「李白と謝チョウ(月+兆)」再考 「澄江浄如練」の受容と展開」と題する査読論文が掲載された。さらに、当初の予定より研究が進み、また一定の成果を収めることができたため、10 月に博士学位申請論文「謝チョウ

(月+兆)詩の研究 唐代における受容とその展開を中心として」を早稲田大学に提出し、1月の公開審査会を経て、2月に博士学位(文学)を授与された。

平成29年度は、主に謝チョウ(月+兆)の文学とその展開、および後世における謝チョウ(月+兆)の人物像の分析を行った。では、謝チョウ(月+兆)が見出した「敬亭山」という文学的素材をもとに、そのイメージや後世の文学に与えた影響などを分析した。その結果、南朝当時は「敬亭山」は民間信仰と結びついた霊山として捉えられていたのに対し、李白の文学で用いられることにより、宣城という都市を代表する名勝地へと変化していったことを指摘した。では、謝チョウ(月+兆)の呼称を粒さに分析し、それぞれの持つ意味合いについて分析を行った。その結果、謝チョウ(月+兆)は李白の愛好を経て宣城という特定の場所と結びついて認識され、さらに中唐の詩人らの愛好を経て、そのイメージを展着させていったことを明らかにした。平成29年度の研究成果は、まず前年度の成果を「從李白到謝チョウ(月+兆): 當塗青山的文學地理景觀考察」という題目で論文にまとめ、四川大学中文系新国 学編輯委員会刊行『新国学』第十四巻に投稿し、掲載された(5月)。また、科学技術振興機構「Science Portal China: 文化の交差点」にて、「「志 青山に在り」から「人間 到る処 青山有り」へ 李白、蘇軾、釈月性」と題してコラムを執筆した(5月)。さらに、北京大学で開催された国際シンポジウムにて「敬亭山の印象」の題目で研究発表を行った(9月)。また、山形大学にて開催された第28回中唐文学会において、「敬亭山の印象 謝チョウ(月+兆)から李白へ」の題目で研究発表を行った(10月)。さらに、前年度に学位授与された博士論文のうち、未発表箇所を「謝チョウ(月+兆)像の確立をめぐる李白から中晩唐へ」という題目で論文にまとめ、早稲田大学中国古籍文化研究所編『中国古籍文化研究 稲畑耕一郎教授退休記念論集』(東方書店)に投稿し、掲載された(3月)。

平成30年度は、本課題の最終年度にあたり、過去の研究業績を整理した上で不足を補った。特に、謝チョウ(月+兆)の後世における影響を考える上で不可欠となる盛唐の李白との関連に着目し、これにかかわる研究課題を進めた。具体的には、2018年10月に刊行された『中唐文学会報』(中唐文学会)第25輯に論文「敬亭山の印象 謝チョウ(月+兆)から李白へ」を投稿し、掲載された。また2018年10月23日~10月26日に中国四川省江油市で李白文化ハイエンドフォーラム(李白文化高端論壇)が開催され、これに出席した。会議においては、代表者講演として「日本における李白文化の広まり(李白文化在日本の伝播影響)」と題して発表を行い、本会議では「李白の文学地理に対する開拓(李白对文学地理的開拓)」と題して研究発表を行った。研究成果は『李白文化高端論壇論文資料集』に掲載された。また、会議の参加報告として、2018年12月に刊行された『中国詩文論叢』(中国詩文研究会)第37輯に学会参加報告「四川省江油市李白文化ハイエンドフォーラムに参加して」を投稿した。今年度の研究業績をもって、研究課題に対しまとまった成果を得ることができた。次年度は、日本学術振興会の研究成果公開促進費を利用し、得られた研究成果を学術図書として出版刊行する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

石碩「李白对文学地理的開拓」、『李白文化高端論壇論文資料集』、p368 p374、2018年、

査読なし

石碩「敬亭山の印象 謝チヨウ（月＋兆）から李白へ」、『中唐文学会報』第 25 号、p1 p20、2018 年、査読あり

石碩「謝チヨウ（月＋兆）像の確立をめぐる李白から中晩唐へ」、『中国古籍文化研究 稲畑耕一郎教授退休記念論集』、p29 p43、2018 年、査読なし

石碩「從李白到謝チヨウ（月＋兆）：當塗青山の文學地理景觀考察」、『新国学』第 14 集、p54 p64、2017 年、査読あり

石碩「李白と謝チヨウ（月＋兆）」再考 『澄江浄如練』の受容と展開』、『日本中国学会報』第 68 集、p18 p31、2016 年、査読あり

〔学会発表〕(計 5 件)

石碩「李白对文学地理的開拓」李白文化ハイエンドフォーラム、2018 年 11 月、中国四川：江油市李白記念館

石碩「李白文化在日本的伝播影響」李白文化ハイエンドフォーラム、2018 年 11 月、中国四川：江油市李白記念館

石碩「敬亭山の印象 謝チヨウ（月＋兆）から李白へ」中唐文学会第 28 回大会、2017 年 10 月、日本：山形大学

石碩「敬亭山の印象」中日漢籍研究學術研討会、2017 年 9 月、中国北京：北京大学

石碩「從李白到謝チヨウ（月＋兆）：當塗青山の文學地理景觀考察」東亜視闕中的中国古典文献與文学學術検討会、2016 年 9 月、中国上海：復旦大学

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。